



木村奈保子の音のまにまに | 第01号

ハリウッド映画の人権運動と「キラーズ・オブ・ザ・フラワームーン」

2023-11-01 | [ONLINE掲載](#) | [本文全文](#) | [全記事一覧](#)

アメリカ映画で、ネイティブアメリカンの題材というと、昨今ではもう、ありふれた西部劇になることはない。インディアンのアパッチ族が悪役として登場した西部劇の白人ヒーロー時代は明確に、終わりを告げたのは知られるところ。しかしそれは、単に流行が過ぎたというような軽いものではなく、マイノリティの人権運動が進んだことによるものだ。

ジョン・ウェインは、ウエスタン・ヒーローとして80本も正統派西部劇に出演し、映画界に貢献。空港にその名が刻まれているほどだが、時代が変わると、彼のヒロイズムは、打ち消された。

確かに、古き良き西部劇のアクションは娯楽として楽しめるが、白人男性社会のなかで、女性はある程度完璧で男性をもてなすだけで、駅馬車を担うインディアンたちは、悪役のレッテルが貼られている。

演出や俳優の魅力があるために、こうしたエンタテインメントは、なんの疑問も持たれることなく、長く愛されてきた。

しかし、本当の歴史はどうだったのか？
現実の問題として、マイノリティの人権が問われるようになる。

1970年代、マローン・ブランドが「ゴッドファーザー」でアカデミー賞主演男優賞を受賞した時、本人は拒否式に出席せず。代わりに、ハリウッド映画における民族の不当な描かれ方に異議を唱えるネイティブアメリカンの女優をステージに立たせた。

ブランドは、自分の賞より、映画界全体から、マイノリティの差別的な扱いを訴えたのだ。

私も、「シェーン、カムバック！」という少年のセリフを愛する映画ファンのひとつでもあるが、世代としては、ハリウッドのアンチ・ステレオタイプに挑む作品を追ってきた側だ。

のちに西部劇といっても「クイック&デッド」（1995年、米）は、シャロン・ストーンが女性ガンマンを痛快に演じた。

報復に感えるタフな女ガンマンが、「明日、死ぬかもしれないから」と神父に愛のアプローチ。セクシーなイメージのシャロン・ストーンが男爵の立場を奪い取った。

B級テストのサム・ライム監督が、映画チックな演出で西部劇に新風を吹き込んだといえよう。

また「ブローバック・マウンテン」（2005年、米）は、カウボーイがゲイという設定で、妻のいる家に訪れた恋人ガンマンが、妻に辱れたところで愛を確かめ合う男同士のラブシーンが印象的。

下世話な展開ではなく、演出のアン・リーは、本作でアカデミー賞監督賞を受賞し、西部劇の時代を変えた。

往年のウエスタンマニアには受け入れがたい一作となったかもしれないが……。

時代を経て、白人男性中心のハリウッドでは、やすやすと性や民族のマイノリティが嫌な役回りを引き受ける時代ではなくなったのだ。

さて、ディカプリオ主演が売りの長編大作「キラーズ・オブ・ザ・フラワームーン」は、かつて西部劇に悪役で登場した先住民がヒロインとして登場する。

1920年のオクラホマ州、オセージが舞台。かつて土地を奪われた先住民たちが、その土地で思わぬオイルマネーを得たことから、白人よりもリッチな生活をしている状況だ。

しかも、女性に財産の権利が与えられ、男性は彼女らと結婚すると罰金になる。

だから、白人男性にもモテる、というか、狙われる。

かくしてディカプリオは、ドライバーとして、オセージ族のヒロインを車に乗せたことから、とんとん相手に結婚へ。

妹二人とも同じく白人男性と結婚している裕福な一家である。そのような環境下で、謎のオセージ族連続殺人事件が起こり、さまざまな疑惑、人間関係争いが広がり、捜査が進められていく。

石油を当てたオセージ族の、実話に基づいた物語。白人と先住民の愛は成立するのか？

まさに、そこに、愛は、あるのか？

この事件が、人権問題を含み解決に貢献したことから、のちのFBIを誕生させたという意味で、担当の捜査官は重要な役どころだが、ディカプリオはその役よりオセージ女性と結婚し、愛に懸ける白人男の役を演じたため、脚本を大幅に修正したという。

ただ、本作のディカプリオの存在感はあるものの、誤謬が見えてちょっと鬱々しく彼を指南する神父役、ロバート・デ・ニロのさりげにキメる顔表にはまるきり違和ない。“デ・ニロと丁々発止のディカプリオ”とは、オセージにも載えないのだ？

先住民のオセージ語も流暢ように話す（というふうには見えない）デ・ニロの流暢な曲者感、魅惑的な美の力3時間半という長さをお忘れする。

そして、新人女優、リリー・グラッドストーンが、自身も先住民の血を引き、居留地育ちで、独特の世界観をかもしている、圧倒的な存在感。

なにより、音楽面で定評のあるマーティン・スコセッチ監督が最後に、ちょっと興味深い演出を加えている。

音響効果もクラシック奏者によるアンサンブルで聞かせながら語り部のようなスタイルで、物語を絡める。ネイティブアメリカンの音とは何か、を探りたかった監督の探求心が伝わる作品でもある。

そこに愛はあるのか、の答えをあなたは出すのだろうか？

『キラーズ・オブ・ザ・フラワームーン』

10/6（金）、ヒューマントラストシネマ渋谷、丸川シネマ有楽町ほか全国公開

【監督】マーティン・スコセッチ

【出演】レオナルド・ディカプリオ/リリー・グラッドストーン/ジェシー・ブレメンズ/ロバート・デ・ニロ

【原題】Killers of the Flower Moon/2023年製作/206分/PG12/アメリカ

【原稿】東和ビクチャーズ

【公式HP】<https://kotfm-movie.jp/>

NAHOK Information

木村奈保子さんがプロデュースする“NAHOK”は、欧州製特殊ファブリックによる「防水」「温度調整」「衝撃吸収」機能の美観ケースで、世界第一級の演奏家から愛好家まで広く愛用されています。

Made in Japan / Fabric from Germany

問合せ＆詳細はNAHOK公式サイトへ

PRODUCTS

スコアブリーフケース
お揃いの豪華！スコアブリーフケースとスタンダードフルートケースのセットです。

NAHOKデビュー当時からフルート奏者用の譜面ケースとしてもっとも多く使用されています。

フルート・ピッコロが、NAHOKシングルケース収納の上からでも、A4譜面や周辺小物も入る、優良のスタンリッシュなブリーフケース型。

フルードアーティスト、指揮者 さほはし 久遠氏

>>>BACK NUMBER

第54回：キヤスティング・カウチ!? 世界最高峰の女性指揮者を主人公にしたスキャンダルとは？

第55回：グローバルなエンタテインメントの質を求めて～エンタテインメント界の性加減の終焉

第56回：マイノリティのドラマを追い続ける映画界の今後

第57回：むが指づき、脚圧されたヒューマン・モンスターは勇者たちに共闘を求むのか？

第58回：アディティブの時代への軌道

第59回：ホラークインとなった首を絞める美女は、どこから来たのか？

第60回：エンタメの温度を員指して

ク短の記事

エンタメの温度を員指して

FLUTE

FLUTE

FLUTE

FLUTE

FLUTE



特集：日本全国オーケストラの旅 第一弾 あなたの街のオーケストラを家しもう

カバー：第21回 日本フルートコンヴェンション in KAWASAKI 2023

THE FLUTE | 最新194号

FLUTE CLUB 入会・更新はこちら

フルート楽譜一覧

ENTRY投稿・応募

>> THE FLUTE アンケートへ

ダウンロード194

こちらから

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。

ブラック・イン。